



星川だより



熊谷空襲を忘れない市民の会 会報

熊谷空襲に思いを馳せて
新潟民医連 山田孝太郎



(石上寺でご住職の話を聴く参加者)
今回の戦跡巡りは今迄で最大の 40 名
が参加した。その中から新潟の山田さ
んに感想を寄せていただいた。

熊谷と言えば何を思い浮か
べるだろう。

私は「日本一暑い場所」とし
ての印象が強かった。暑さと一
緒に報じられる「大温度計」や
かき氷の「雪くま」など熊谷の
一つの表情しか知らないまま、
初めて熊谷に足を踏み入れた。

恥ずかしながら熊谷空襲に
ついて知るのは初めてだった。今
回の研修に際して、予め熊谷の
町を歩いてみた。元々大学時
代にはフィールドワークを主と
して学んでいたもので、足には自
信がある。私が歩く際に大事
にしていることは、その土地の
流れている日常や時間に焦点
を当てることや、その土地の風
や匂いを感じることだ。歩いて
みて気になったのは、ホルモン焼
きのお店が多い。熊谷という土
地なのにやけに「大阪」という

文字が目につく。「なんて面白
い街なんだろう。」それが熊谷
の第一印象だった。

迎えた研修では、事前に歩
いていた場所を巡るような形に
なっていたが、空襲の話を書く
前と後とで、全く景色が異な
る。さっきまで歩いてきた道が、
80 年前に空襲で焼かれていた
ことを知ると、ただの「面白い
街」とは違う表情が見え隠れ
する。しかしながら、歩き続け
ると、この二つの表情がリンク
していく。過去と現在が重なる
瞬間だ。これがフィールドワー
クの醍醐味だろう。

当時の人々はどういう日常
を過ごしていただろう。太平洋
戦争最後の空襲と言われる熊
谷空襲は、市民に対してどん
な影響を与えたのだろう。熊
谷空襲の 12 時間後に流れた終
戦の報せを、どんな気持ちで受
け止めていただろう。もっと早
く終戦していたら犠牲になら
なかった人がいたのではないか。
そのようなことが頭をぐるぐる
回す。

私たちにとっては、空襲があ
つたり、戦争というものは、非
日常的な存在だが、彼らにとつ
てはこれが日常だったのかもしれない。
そう考えると、今私が
空襲の恐怖におびえずに、熊
谷の街を歩けることは、当たり
前ではない。遠い誰かの日常に

思いを馳せ、歩くことが、自分
にとつての非日常を日常にさせ
ない一歩なのだと思う。

熊谷東中学での平和学習

吉田庄一



【熊谷市立熊谷東中学校】

6 月 26 日(金)熊谷市立東中
学校で、熊谷空襲について平和
学習を行った。1 年から 3 年ま
での全生徒対象ということだ。
体育館での開催となったが、冷
房設備がないので気温が高い場
合はリモートで行うという。な
るほど今風の対応と思うが、
熊本地震の映像を見るにつけ、
特に小学校・中学校の体育館へ
の冷房設備は早急に進めてほ
しいと切に願う。当日は小雨で
気温の心配はなかったが、全生
徒数約 300 人、整列、開始、
進行、終了とすべて生徒が仕
切っていたのは少々驚いた。
考えてみれば、私の中学生時
代は、全学で 1000 名は超え

最初に熊谷空襲について知っ
ているか手を挙げてもらった。
ほとんどの生徒は知っているよ
うだった。事前学習もしたらし
い。

私の講義は、郷土の歴史か
ら何を学ぶかという視点で構
成した。①当時、同世代の生徒
たちが、軍需工場に勤労働員
され、主にゼロ戦などの軍用機
の部品を造っていたこと。②東
中の通学区域で特徴的なこと。
まず挙げられるのが学童疎開
だ。東京の京橋区(現中央区)
の京華国民学校の生徒が、上
之地区の龍淵寺、一乗院、佐
谷田地区の長福寺、永福寺、
久下地区の東竹院、平戸地区
の超願寺に疎開していたこと。
そして、久下の森田隆夫さん
と佐谷田の梅澤茂さんの体験
の紹介。③熊谷空襲のことと、
その関連性から中島飛行機
のこと。そして熊谷の町は中島飛
行機を支える軍需都市だった
ことなどだ。



さらに対象が中学生ということで少し深堀して、なぜ最後の空襲と呼ばれているのかを、ポツダム宣言から玉音放送までを時系列に説明。最後に視点を広げる意味から戦争が持つ2つの顔を取り上げた。熊谷空襲に象徴される被害者としての顔だけでなく、アジア太平洋戦争の加害者としての顔だ。

最後に、郷土の歴史から、あなたは何を学ぶのかと問いかけた。

【熊谷空襲は、単なる「過去の悲劇」ではありません。それは、戦争の止めにくさ、情報遅れが招く不条理の命の犠牲、そして社会全体が熱狂に飲み込まれる危うさを、現在に生きる私たちに警告する「歴史のアーカイブ」でもあるのです。

未来に向けて重要なチェックリストとして、

❑熱狂する空気に流されず、立ち止まって考えること。

❑多面的な視点で物事を見ること。

❑自分の街の歴史を知り、語り継ぐこと。

あの夜から今日の皆さんへ。私たちは過去を変えることはできません。しかし、「二度と

同じ悲劇を繰り返さない未来」をつくることはできます。郷土の歴史を知ることが、その第一歩です。」と結んだ。

なお、当日は昨年八木橋で行った戦後80年平和展のパネルを展示した。時間的な制約で生徒たちは見られなかったと思うが、先生たちが見ていたので展示した甲斐があった。

話は変わるが、1937年12月13日、日本軍は南京を陥落した。熊谷では、12月7日に南京陥落祝賀提灯行列が行われている。陥落前に陥落祝賀が行われているのだ。これは、熊谷に限ったことではないのだが、メディアが煽り、国民(当時は臣民)が熱狂する。そして新たな熱狂を追い求め、メディアが応える。実際の軍事行動より国民の熱狂が先走っているのだ。こういった熱狂は、決して過去のものではない。

うらま

熊谷市立熊谷東中学校は、創立時は校田中学校という名前前で、場所は、理研の杜宅の辺りだったという。通学区域の佐谷田小、久下小、成田小から一文字取り、熊谷市の花である桜と合わせて名付けられたという。その後、星宮中学校との統合で、名称が熊谷東中学校に変わり現在の場所に移転した。講演終了後校長室に招かれた。歴代の校長の写真が飾られていたが、初代はなんと小沢国平さんだった。空襲当時熊谷高等女学校の教頭で、体験談を残しており、勉強させていただいた。

イベントのお知らせ 熊谷空襲を忘れない市民の会

私たち熊谷空襲を忘れない市民の会は、熊谷空襲について学び継承することを主な活動領域としております。今年も戦跡巡りや講演会などを通じて継承活動を展開しています。

ところで、会の成り立ちを説明しますと、2015年に安保関連法が成立しました。これは、憲法のもとで禁じられているいわゆる集団的自衛権を容認するもので、自衛隊の海外活動や他国軍への後方支援を大幅に拡大した内容になっています。これらの法律により、戦後日本が歩んできた平和主義が蔑ろにされ、戦争に巻き込まれる可能性が現実的になったといえます。

これに対して、日本は再び戦争をする国になるのではないかと

という不安を持った熊谷市内に住む母親4名は、国に対して法案の廃案を求める請願を熊谷市に提出しました。請願は通りませんでした。このことが種となり熊谷空襲を忘れない市民の会が誕生しました。

安保関連法と熊谷空襲がどう結びつくのか、一見すると全く関係ない言葉です。しかし、その底流に流れるのは「戦争」です。戦争では、軍人だけでなく子どもや一般市民も犠牲になります。幸い戦後日本は戦争に巻き込まれたことがなく平和が維持できています。しかし世界的にみると、戦争のない時がないのです。現在もロシアとウクライナ、イスラエルとガザ及び周辺国、アメリカとイランなど枚挙にいとまがありません。そういった戦争に日本が巻き込まれてしまう危険があるのです。

考えてみると、熊谷はアジア太平洋戦争の最後空襲で、大きな被害を被っています。熊谷市民はこ

ういった体験を通してはならないと肝に銘じたと思います。しかしながら、熊谷空襲も遠い過去となり、知らない市民も増えてきました。そこ

で熊谷空襲を学び、記録に残し、継承する活動を中心に据えました。同時に「熊谷平和講座」を開催して、「平和」について造詣を深めてきました。

今回のイベントは熊谷平和講座の一環で、憲法について学び、参加していただいた方々と憲法について話すことを目的にします。

講師の清水雅彦氏は、憲法学者で日本体育大学の教授です。著作や講演も多く、積極的に活動されています。憲法についての問題点等適切なサジェッションを与えてくれると思います。是非ご参加ください。

講演とトークイベント
憲法を学び、みんなと話そう!
講師: 清水雅彦氏
日にち: **9月12日(土)**
時間: 開場 13:00
開始 13:30
終了 16:30
場所: **熊谷市緑化センター**
参加費: 無料
資料代: 500円

会計報告 (2026/3/27~2026/8/20)

収入	40,000円
支出	22,770円
残高	84,304円

編集委員 吉田庄一、小川美穂子、
米田主美、大久保由美子
連絡先 吉田庄一 (090-4957-9181)
メール imajin241@gmail.com
HP <http://www.peace-kumagaya.org>